

ESDと復興

ESD・教育と防災・復興(仙台・盛岡)

私たちは震災前から持続可能な地域づくりやESD（国連・持続可能な開発のための教育）について実践して、震災後も宮城と岩手で「ESDと復興」というプロジェクトを立てて、フォーラムやスタディツアーを行ってきました。

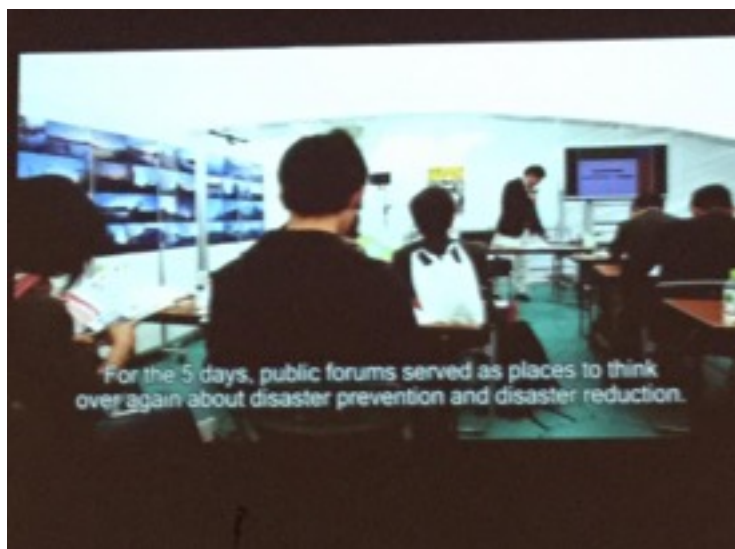
各地でESD地域ミーティングを行い、ESDユネスコ世界会議に地域の意見を反映し、また、日本の市民・CSO(2015防災世界会議日本CSOネットワーク・JCC2015)として国連防災世界会議にも意見を反映していく活動してきました。

「ESD・教育と防災・復興」(仙台・盛岡)は「会議」のためではなく、これから復興を教育・ESDでどう進めていくかを考えました。

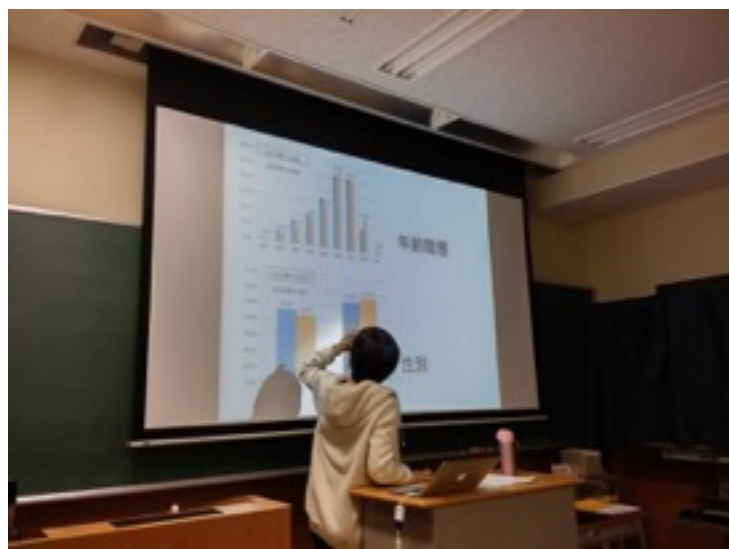
3月15日、「ESD・教育と防災・復興(仙台)」では、「ESD・教育と防災・復興一気仙沼市小泉地区で考えたESD・教育」として阿部正人氏(気仙沼市在住・教員)が、現場の教員が体験から考える防災と住民として直面する復興のあり方について語り、映画「赤浜Rock'n Roll」の一部上映と監督小西晴子氏のお話し、「世界防災会議とESD世界会議とこれから」として長岡素彦がESDと復興について述べ、参加者全員の意見を聞きながら論議しました。

3月19日、「ESD・教育と防災・復興」(盛岡・岩手大学)では、梶原昌五氏(岩手大学教育学部教員・岩手大学地域防災研究センター・岩手大学三陸水産研究センター)の趣旨説明、「仮設住宅調査から見る復興のきざし」として高松洋子氏(岩手大学三陸復興推進機構研究員)による仮設などの住民の状況の調査説明、黒澤克行氏(岩手県立大槌高等学校用務員・山田町船越小学校元PTA会長)による地域と学校の状況説明、高橋辰昇氏(特定非営利活動法人三陸産業復興支援代表理事)の地域と生業の状況の説明、「世界防災会議とESD世界会議とこれから」として長岡素彦がESDと復興について述べ、参加者全員の意見を聞きながら論議しました。

参考「ESDと復興」(2012-2013)、「市民イニシアティブ」(2014) サイト <http://esd.weblogs.jp/>



国連防災世界会議PF公式ビデオに「ESD・教育と防災・復興」(仙台)



「ESD・教育と防災・復興」(盛岡) 岩手大学

第3回国連世界防災会議・市民世界防災会議

2015防災世界会議日本CSOネットワーク（JCC2015）は、2015年3月に仙台での「第3回国連世界防災会議」のために海外の市民社会の人々とも協働しつつ「ポスト兵庫行動枠組（HFA2）」の策定に参画し、それを含めた持続的で災害に強い社会の構築に向けて、世界の人々と共に学びを分かち合い提案していくための、日本のCSO（市民社会組織）のネットワークです。

JCC2015の賛同・会員として「本会議でのアドボカシー活動」、「市民世界防災会議」に企画実施に参画しました。その他に、「市民が伝える福島 世界会議」(福島)・「原発事故から4年～福島学びと地域づくりへの道:地元NPOの視点から」(仙台)、「福島10の教訓」ブックレット、「Road to Sendai」キャンペーンなども行いました。

4日間の市民世界防災会議には、普通のひとが参加できない本会議とは違い、東北や世界、日本の市民が参加し、本会議の主催のUNISDRの国連事務総長特別代表マルガレータ・ワレストロム氏がかけつけ、唯一、本会議以外で「市民力への期待」を述べ、ADRRN代表、GNDR代表などともに市民の意見に耳を傾けていました。そして、市民、東北の市民セクターや女性セクターとともに市民防災世界宣言「千年後に夢をこめて」を作成しました。そして、「ESD・教育と防災・復興(仙台)」は、この市民防災世界会議の一環として開催されました。

また、期間中開催の「持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開～より良い子どもたちの未来に向けて～」(文科省、宮教大)にも参加し、意見を述べました。

一般社団法人地域連携プラットフォーム
ESD学校教育研究会
長岡素彦